

八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会

次に掲げる事項について、別添理由を添えて諮問します。

八百津町学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の見直し及び子どもたちのより良い教育環境について

令和3年6月30日

八百津町教育長 社本勝義

(理由)

時代はその変化の流れを加速化させています。子どもたちの教育環境も同様です。町内の小学生、中学生はやがて社会へ巣立ちますが、その未来は「予測が困難」と言われています。学校、地域、家庭などの大人たちは、子どもたちが未来を切り開くだけの力を育むことを念頭に置かねばなりません。

一方、人口減少という課題が顕著となっています。これは、児童生徒数の激減、町財政の圧迫といった、現実的な問題を突き付けています。令和9年度に町内5校の小中学校に入学する児童数は合計で34名です。学校施設は老朽化が進んでいます。町内の小中学校は、子どもたちの未来を育む施設として、目の前の課題を踏まえながら、方向性を定める時期に来ています。

このような中、八百津町は令和3年3月に「八百津町学校施設長寿命化計画」を定めました。また、八百津町議会では、令和3年3月議会において、「八百津町小中学校の在り方検討委員会条例」を制定しました。

「八百津町学校施設長寿命化計画」は、学校施設の実態について、次のようにまとめています。

① 学校施設の保有量

- ・小中学校合わせて7施設（69棟）あり、合計床面積は30,171.8㎡。
- ・建設年別に見ると、床面積で約75%の建物が築30年以上を経過し、老朽化が進んでおり、維持管理経費の増大が予想される。

② 施設関連経費

- ・今後40年間の施設管理経費は、約42億円が見込まれ、今後の財政状況を勘案すると、これまで同様の維持・管理を進めていくことは難しい状況。

このような実態を受け、「学校施設の規模・配置計画等の方針」を次のように定めています。

学校施設の延床面積の総量は、7施設で30,171.8㎡（公共施設全体に占める割合は37.2%）となっており、公共施設の維持管理を考えていく上で大きな影響があり統廃合の推進が求められています。

八百津町公共施設再編計画に沿って、学校施設の再編を推進します。当面は維持管理を行いながら使用を継続しますが、大規模改修や建替えなどのタイミングで統廃合を進め、最終的には2施設（13,100㎡）にすることを目標に再編を進めます。

上記のように、最終的には小学校1校、中学校1校を目標に再編を進めるとして
います。

「八百津町小中学校の在り方検討委員会」は、将来を見通した学校施設の在り方
について、検討いただく会です。「八百津町小中学校の在り方検討委員会条例」は、
設置や所掌事務について次のように定めています。

第1条

八百津町立の小学校及び中学校（以下「学校」という。）における将来的
な児童生徒数の動向を踏まえ、八百津町学校施設長寿命化計画に基づく学
校施設の見直し及び子どもたちのより良い教育環境に関する検討を行うた
め、八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会（以下「委員会」という。）
を設置する。

第2条

委員会は、学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方と、適
正化に向けた具体的な方策について検討し、八百津町教育委員会（以下「教
育委員会」という。）に提言する。

本委員会は、第1条にありますように、「八百津町学校施設長寿命化計画」に
基づき、学校施設の見直し及び子どもたちのより良い教育環境に関する検討を
行うものです。検討した結果は、第2条にありますように、八百津町教育委員会
に提言することとしています。

具体的には、以下の事項についてご検討をお願いします。

第一に、「学校規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方」についてです。
長寿命化計画で示している、1小学校、1中学校への再編について、その意義や
全体像等をおまとめいただきたいと思います。その際、子どもたちの未来を想起
し、どんな教育環境が、未来を生き抜く子どもたちにふさわしいのかを、地域の
実情や学識経験者からのご意見を踏まえながらご議論いただけたらと思います。

第二に、「適正化に向けた具体的な方策」についてです。どのような手順で再
編を進めるのか、どのような施設にするのか等を上記「第一に」でおまとめいた
だいたことを基に、地域の実態や学校施設、町財政の実情等も勘案しご検討いた
だけるようお願いいたします。

以上、審議の上、教育委員会へ答申願います。